

神宮外苑の歴史、文化と景観に調和した国立競技場の検討を求める意見書

上記の議案を提出する。

平成26年6月26日

提出者

12番 内山 さとこ

20番 山本 あつし

武蔵野市議会議長 与座 武 殿

神宮外苑の歴史、文化と景観に調和した国立競技場の検討を求める意見書

現在、平成 32 年東京オリンピックに向けて、神宮外苑にある国立競技場を壊し、新国立競技場を建設するという動きになっている。新国立競技場の設計については、昨年、世界的建築家である槇文彦氏から、神宮外苑の歴史的な文脈に調和しない建築案であるという重大な指摘がされて以降、建築家はじめ各界の著名人から見直しを求める声が相次いでいる。

神宮外苑一帯は聖徳記念絵画館に象徴されるように、明治神宮内苑と一体として歴史文化を継承する重要な地区であり、大正 15 年、日本で最初の風致地区に指定された地区である。その後、昭和 45 年には、東京都風致地区条例により高さ 15 メートルに制限されており、周辺一帯は銀杏並木など緑豊かな都民の貴重な憩いの地である。

しかしながら、今年 5 月 28 日、日本スポーツ振興センター（JSC）がまとめた基本計画案は、最大で高さ 70 メートル、延べ床面積 22 万 3 千平方メートルで、外苑西通りを人工地盤で覆う巨大構築物である上に、総工費は約 1,692 億円、年間維持管理費約 40 億円超という巨費を費やすものである。東京都は、6 月 10 日、公共工事にかかる建築資材や人件費の高騰を理由に、オリンピック会場計画全体を見直すと発表したところである。また、競技場の改修は世界的潮流となっており、平成 23 年には、777 億円で現競技場を改修する案（久米設計）が示されていたという事実も明らかになっている。

新国立競技場についても、東京都民の意見を広く聴取し、将来にわたって財政負担を増大させることのないよう、さらなる検討が求められる。

「持続可能な発展」を掲げる国際オリンピック委員会（IOC）のアジェンダ 21 では、「環境保全地域、地方、文化遺産と天然資源など全体を保護しなければならない」また「新規施設は（中略）周りの自然や景観を損なうことなく設計されなければならない」と述べられている。東京が世界的にも魅力ある都市文化を醸成してきたことは、経済発展を遂げながらも、歴史性・文化伝統を継承し、自然環境・景観に調和した街並みを築いてきたという点にある。

よって、武蔵野市議会は、貴職に対し、平成 32 年のオリンピック東京開催に向けて、先人の築いた都市文化を継承し、神宮外苑の歴史と文化、緑豊かな景観に調和した国立競技場の検討を求めるものである。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 26 年 6 月 日

武蔵野市議会議長 与 座 武

衆議院議長
参議院議長
文部科学大臣
東京都知事

あて